

## ポスト B R I C s の一角として注目されるフィリピン

～優れた英語力と安価な労働力で「第2のインド」と目される～

2006年7月26日(水)

B R I C s 経済研究所 代表 門倉 貴史

E-mail: postbrics@yahoo.co.jp

### ～要 旨～

フィリピン経済は堅調に推移しており、2005年の実質経済成長率は前年比+5.1%を記録した。外国企業による直接投資の流入が、近年のフィリピン経済の押し上げ要因となっている。フィリピンへの直接投資認可額は、アジア通貨危機の影響で90年代後半に大きく落ち込んだが、2000年代に入ってから増加傾向で推移、2002年時点の4604.9億ペソから2005年には9580.7億ペソと3年間で2.1倍の規模に膨らんだ。2006年1～3月期の認可額も前年比で2倍となる634.9億ペソとなった。フィリピン経済は、B R I C s の一角を占めるインドに似た特徴を備えていることから、「第2のインド」ともいわれる。タイやインドネシアなど周辺国に比べて優れた英語力と高い教育水準を有しながら低水準にとどまるフィリピンの労働力は、管理費の削減を推し進める海外の多国籍企業にとっては大きな魅力となる。実際、A S E A N 4 カ国(マレーシア、フィリピン、タイ、インドネシア)における就学率を比較すると、初等教育から高等教育までフィリピンがもっとも高い水準となっている。

海外で働くフィリピン人からの送金も、外貨の蓄積というかたちでフィリピン経済を側面から支えている。2004年末時点で、海外で働くフィリピン人の数は808万3815人にも及ぶ。フィリピンの総人口が8350万人であるから、人口の約1割が海外で働いている計算だ。海外のフィリピン人からの送金額は年々拡大しており、2005年は106.9億ドルと初めて100億ドルの大台を突破した。

フィリピン経済のアキレス腱は政情が不安定であるということだ。2006年2月には、クーデター計画が発覚し、アロヨ大統領が非常事態を宣言する事態となった。また、得意の英語についても、最近では、地元のタガログ語を英語に混ぜて使うフィリピン人が増えつつあるといわれ、英語力の水準が先行き低下する懸念が出てきている。

さらに、フィリピンは国内で消費する原油の9割以上を輸入に頼っているため、原油の国際価格が高騰すると、インフレ圧力が生じやすい。すでに最近の原油の国際価格を受けて、フィリピンの消費者物価指数は大幅に上昇しており、2005年は前年比+7.6%を記録した。2006年に入ってから物価の上昇は続いており06年6月時点では前年比+6.7%となっている。

フィリピン経済が持続的な高成長路線に乗るためには、これらのマイナス要因を克服していく必要がある。